

せいけん
詩集

第百二十五篇

作：近藤せいけん

「七人の太鼓士」

みちのくの和太鼓 いき

心に響く 和太鼓

時に低く 静かに

時に大きく 激しく

勇壮に 連打する

時に悲しげに 音の魂を

連れてくる

七人の太鼓士

みちのくの 大地が浮かび

みちのくの 風が聞こえる

みちのくの和太鼓 いき

復興の槌音

希望の光

七人の太鼓士が打ち出す

和太鼓の魂が

町々の村々の人々を

平安に導いて ゆく

みちのくの 実りの日は近い

みちのくに 幸いあれ

